

AFC フォーラム Forum

Agriculture, Forestry, Fisheries, Food Business and Consumers

10

2020

特集 **スマート農業の扉が開く**

An aerial photograph of a vibrant agricultural landscape. The scene is dominated by various shades of green, from bright lime green to deep forest green. A winding road or path cuts through the fields, and there are patches of brown soil, likely recently tilled. The overall impression is one of a healthy, well-maintained farm.

AFCフォーラム 10

Agriculture, Forestry, Fisheries, Food Business and Consumers 2020

特集

スマート農業の扉が開く

3 もうかるビジネス、住みやすい農村へ

三輪 泰史

スマート農業は「匠の眼・頭脳・手」として活用できる。労働力不足や技術習熟度の向上など、日本農業の直面する課題解決の切り札となり、農村の暮らしを変革する可能性を秘める

7 自動化・無人化。次世代農業技術開発

飯田 聡

農機とICTの融合により、農機の完全無人化など新しい水田農業のカタチが期待される。次代を見据え開発に取り組む農機メーカーが描く、スマート農業・農村の未来像

11 フードチェーン視野に北海道農業展望

野口 伸

耕地面積が大きい北海道では、スマート農業の効果が発揮されやすく導入や実証実験が進む。そこでロボット工学第一人者に北海道の事例からスマート農業発展の道筋を語ってもらった

特別緊急企画

15 コロナ禍における農林水産物・食品輸出 その動きとジェトロの支援策

中 裕伸

コロナ禍によって日本産農林水産物・食品を取り巻く輸出環境は激変した。需要構造の変化は海外での新ビジネスを生む可能性がある

経営紹介

変革は人にあり

23 ファロスファーム株式会社／大阪府 竹延 哲治

世界と戦える高い生産性を支えるのは、データ重視の「病気と闘わない」「養豚を科学する」経営。国内養豚出荷シェア2%を視野に入れ、日本で一番たくさん食べられる豚肉をめざす

新・農業人

31 有限会社ジェイ・ウィングファーム／愛媛県 大森 陽平

地域から厚く信頼されていることが評価され、就農7年目で事業承継を見据え取締役に就任。「農業で地域を守る」を信念とし、より多くに裸麦を知ってもらおうと奮闘中だ

11月号予告

特集は、「事業承継シリーズ 前篇～稲作経営～」を予定。
日本の基幹的農業従事者数のうち約7割が65歳以上と高齢化が進み、後継者不足が深刻化する状況で、喫緊の課題の一つに事業承継が挙げられます。そこで2回に渡り、耕種、畜産における事業承継を考えます。前篇では、水田農業の事業承継のヒントを探ります。



撮影：菊地 晴夫

北海道美瑛町
2017年爽秋

収穫期の大地

■収穫時期を迎えた美瑛の大地。鮮やかな緑は秋まきの小麦や牧草地。土が見えているところは、小麦やジャガイモの収穫を終えた畑で、黄色は収穫間際の大豆の彩りである■

シリーズ・その他

観天望気

スマート農業は技術の掛け算 湯川 智行…… 2

主張・多論百出

フリーフロム株式会社

山崎 寛斗…… 17

農と食の邂逅

鈴木 佐江子・希巳江／静岡県

片柳 草生(文) 河野 千年(撮影)…… 19

フォーラムエッセイ

夏の思い出 内田 恭子…… 22

耳よりな話 221 回

温暖化がもたらす新たな機会

杉浦 俊彦…… 26

まちづくりむらづくり

小さな村に大きな夢を実現する

夫婦が手づくりの里山体験施設

ケロンの小さな村／石川県能登町

上乘 秀雄…… 27

書評

三次 理加 著

『お米の先物市場活用法』

武本 俊彦…… 30

インフォメーション

販路の多角化へ取り組む皆さまへ

「#元気いただきますプロジェクト」のご紹介

農林水産省…… 33

リスクマネジメント研修で講師を務めました

帯広支店

「アグリフードEXPOオンライン」開設のお知らせ…… 35

新型コロナウイルス感染症・令和2年7月豪雨に係る

特例制度が措置されています…… 36

みんなの広場・編集後記…… 37

TiDBit: 上級農業経営アドバイザーのこぼれ話 連載6号

経営にゴールなし

支援者がいれば困難越え成長する

古賀 久子…… 38

*本誌掲載文のうち、意見にわたる部分は、筆者個人の見解です。

観天 望気

スマート農業は技術の掛け算

農林水産省の事業としてスマート農業関連実証事業が全国各地で展開されている。2019年度より開始され、20年度に新たに開始されたものを含み、現在148の実証グループが、スマート農業を導入した実証実験に取り組んでいる。

たとえば水稲作で見ると、ほぼ全自動での作業が可能なロボット田植機や、水田の入水や落水などの水管理をスマホやパソコンで制御できるシステム、さらに生育状態をドローンなどで観察し、肥料や農薬を適切に散布する技術などである。

さて、スマート農業の最終目的は、生産性を向上させることである。農政の課題として、食料自給率の向上、農業就業人口の低下や高齢化などへの対応が挙げられるが、スマート農業はこれらに対する対策となる。

生産性は一般に、労働生産性と土地生産性に分けられるが、たとえば、ロボット田植機は、田植に係る人員を減らすことで労働生産性を向上させる。一方、ドローンによる生育管理は、収量増が期待でき、土地生産性を向上させる。また、水管理のシステムは水管理の人員を減らすことができるので、労働生産性を向上させる。

しかし、生産性をより高度に向上させるためには、労働生産性と土地生産性を「掛け算」することが重要だ。たとえば、水管理であれば、人員を減らせるといふ労働生産性の向上に留まらず、生育状態に応じた適確な水管理により収量を向上させる技術として昇華させ、土地生産性をも高めるといったことである。

生産性を高める農業技術はもちろんスマート農業技術だけではない。これも水稲作の例だが、次世代ともいえるべき高効率で安定的な直播栽培技術の開発と普及が進んでいる。これらとスマート農業技術との掛け算をすること。異なる技術の掛け算は、技術のハイブリットとして飛躍的な生産性の向上につながるものと信じている。



国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター 所長

湯川 智行

ゆかわ ともゆき
1960年生まれ。千葉大学園芸学研究科修了。博士(学術)。1985年農林水産省入省後、北陸農業試験場、北海道農業研究センター、ワシントン州立大学、秋田県農業試験場などを経て、2018年より現職。主に水田作付体系の技術開発に従事。スマート農業実証事業では、水田作の体系別責任者を務めている。

フリーフロム株式会社 代表

山崎 寛斗



●やまざき ひろと●
1994年千葉県生まれ。「プラントベースで日本と世界を繋ぐ」をテーマに事業を展開。海外のプラントベース企業の日本誘致や訪日ベジタリアン向けメディアなどの事業を手掛ける。台湾で『東京食素！美味素食餐廳47選』『關西食素！美味素食餐廳55選』など、東京および関西のベジタリアンガイドブックを出版。

近

年、日本でも、「代替肉」「ベジタリアン・ヴィーガン」(注1)に関連するニュースを見かける機会が増えてきた。その一方、「今ひとつ市場感がつかめない」という声も聞かれる。そこで、「コロナ禍で急成長するベジタリアン・ヴィーガン市場」(以下、「ベジタリアン等市場」とする)について述べてみたい。

まず、世界におけるベジタリアン等市場に着目してみよう。2020年4月の観光庁のレポート「飲食事業者等におけるベジタリアン・ヴィーガン対応ガイド」によると、世界の主要100カ国・地域においては、日本の総人口の約5倍に匹敵する6億3000万人のベジタリアン・ヴィーガンが存在し、その数は年々増加傾向にある。最近だと、菜食先進国といわれる米国で、新型コロナウイルスの影響により健康志向が高まり、あるスーパーマーケットでは植物性代替肉の売り上げが1週間で約200%増の成長を遂げた(注2)。

では、日本においてはどうか。国内におけるベジタリアン等市場の盛り上がりのきっかけは「インバウンド」である。前出の観光庁のレポートによれば、18年時点のインバウンドのベジタリアン等市場は450〜600億円規模であり、全訪日旅行者のうちベジタリアンが4.6〜6.1%を占めた。また、19年12月には一般社団法人沖繩観光コンベンションビューローが『沖繩ベジタリアンガイドブック』を発行するなど、供給側も右肩上がりのインバウンド需要に対応してきたが、「まさにこれから」というタイミングでコロナ禍に直面した。

国内のベジタリアン対応はこれまで「インバウンド対策として」という側面が強かったため、東京2020大会が開催延期となったことで、一時はベジタリアン等市場の停滞も予測された。しかし、予想外の結果が現れた。「コロナ太りを実感している人が57%にのぼる」というNHKの報道にも見られるように、コロナ禍がきっかけで日本人の健康意識が

高まり、ベジタリアン等市場における「日本人需要」が高まったのだ。また、19年12月に実施された「第2回日本のベジタリアン・ヴィーガン意識調査」(注3)によると、週に1回以上、意識的に動物性食品を減らす食生活を送る「フレキシタリアン」が16・8%にのぼった。これを日本の総人口に当てはめてみると、日本国内のベジタリアン等市場は2700万人規模と推計される。

実

実際に現場の声に耳を傾けてみよう。世界的なサイト「HappyCow」で口コミランキング世界1位に輝いた東京・自由が丘のヴィーガンレストラン「菜道」は、コロナ禍前は訪日外国人でにぎわっていたが、最近では野菜不足やコロナ太りを気にする日本人女性の来店が急増している。また、愛知県名古屋にある味噌煮込みうどんの老舗「山本屋大久手店」の、コロナ禍における人気メニューの変化が興味深い。コロナ対策としてUber Eats(出前&宅配の総合サイト)を導入したところ、売り上げの半分はベジタリアン・ヴィーガン対応のメニューで、なかでも野菜天丼の売り上げが群を抜いて

よいとのこと。これは前述の調査結果にあるような、フレキシタリアンの増加が反映されているといえるのではないだろうか。「ゆるるベジ」「隠れベジ」「週一ベジ」といったフレキシタリアンの新しい食生活のスタイルが一般に浸透しつつあるが、ビジネス的な観点から見てもフレキシタリアン市場の潜在的なニーズをどれだけうまく取り込めるかが肝であり、今後の外食需要の成長に大きな影響を与えるだろう。

最後に第一次産業と食品加工業について触れたい。歴史をひもとけば、日本食は精進文化であり、ベジタリアン・ヴィーガン対応は日本のお家芸といっても過言ではない。こんにゃくを活かした代替肉、豆腐や山芋を活かした精進うなぎなど、長年受け継がれてきた伝統が、ベジタリアン等市場拡大の糸口になるに違いない。

(注1) 宗教、動物愛護、環境保護、健康志向など、背景や目的で食事制限のしかたがいくつかのタイプに分かれる「ベジタリアン」に対し、「ヴィーガン」は一切の動物性食品を摂取しない完全菜食主義者を指す。

(注2) 「The Beet」2020年4月27日付の記事より

(注3) 実施団体 株式会社フレンバシー

いま、ベジタリアン・ヴィーガン市場が熱い
精進文化を活かして需要を掘り起こす

単身、現金持参で牛を購入
行動的な母の背中を見て
二人の姉妹も、同じ道へ
祖父母と両親と姉妹の
にぎやかな家族農業

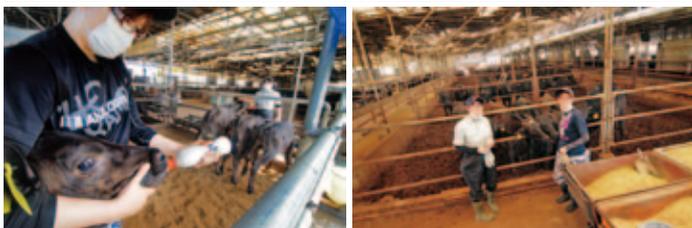


鈴木 佐江子 さん
希巳江 さん

静岡県森町
森静畜産

高齢化や後継者不足から大規模な経営体に集積が進む畜産業。北海道の大自然で動物たちと交流する畑正憲の「ムツゴロウ王国」に憧れをいだいて、母は牛飼いになり、その母の後ろを娘二人が追いかける。





P19:育成牛の牛舎で、発酵させた牧草を与える佐江子さん。この牧草は牛たちが大好き。育成は体づくりと胃づくり。肥育のときに沢山食べられるお腹をつくる P20:餌を与えた後、子牛たちの食欲の状態などを希巴江さんと観察して記録。「食欲がないと、風邪を引いたのかな」と識別番号を記し、状態を注意する(右) 来たばかりの生後2カ月の子牛に補液を与える(左下左)



3世代の家族農業を営む

森町は、三方を小高い山々に囲まれた町で、清冽な太田川が町を貫くように走る山紫水明の地。豊かな自然に包まれた地で、400頭の肉牛を育てている森静畜産は、鈴木直希・留美夫妻(ともに50歳)と2人の娘、留美さんの両親の一家6人の家族経営だ。

肥育する牛は、ホルスタイン(乳用種)のメス牛に、肉用和種のオス牛をかけ合わせた交雑種で、F1と呼ばれる肉用牛だ。この牛肉に「森の姫牛」とブランド名が付けられたのは3年前。その味はレストランの料理人の間で一目置かれるようになり、森町のふるさと納税の品目にも選ばれた。

きっかけは、2017年に第6回全国肉牛事業協同組合枝肉共励会(交雑種)で、一日当たりの収益単価が最も高い牛を選ぶ経済肥育賞を受賞したことだった。「食肉メーカーの担当者が食べて、『うまい。知らずに食べても鈴木さんの肉だとわかる』と言ってくれたんです」と妻の留美さん。

プロ達から太鼓判をもらった肉は、メス限定で飼料米による早期育成が特徴。通常、F1の牛肉は、27カ月ほどかけて肥育。たっぷり脂が乗って、霜降りのサシが入ったところが出荷される。

鈴木さんの姫牛は、21〜22カ月の早期肥育出荷だ。サシは、肥育の最後に入るの、体躯が小柄な姫牛には入らない。ところが、「サシは見えないが、切ると手がベタベタになる

ほど脂がのっている」と、ローストビーフをつくるシェフが絶賛してくれた。脂の融点温度が低いので、口に入ればとろとろとうまみと甘みが広がっていく。

大金持って牛を買いに

森静畜産のスタートは、なんと留美さんの高校2年生のときというから驚く。両親に融通してもらった750万円の大金をリュックサックに詰めて、牛を30頭購入したいと山形県まで行ったのだ。

世はムツゴロウがブームで「人と違うことに憧れ」農業高校に進学した。牛の飼育は未経験だったが、牛舎を設け、夢だった子牛の育成に没頭した。桁外れの行動力だ。

21歳で直希さんと結婚した。ラッキーなことに、彼は肉牛農家の長男だったが鈴木家に入籍してくれた。直希さんの尽力で、30頭が120頭に、今から10年前には200頭まで増やすことができた。

肥育法を変えて増頭したいと悩んでいた直希さんに、「自分も就農するから増やそう」と声を掛けたのは、長女の佐江子さん(24歳)だ。その一言に力を得て、6年前、新しい牛舎を建て400頭の短期肥育に踏み切った。

佐江子さんは、静岡県立農林大学校畜産科へ進学。2年間学んで家業に入った。自分が入って、みんなが助かるといいな、という気持ちでした」とさりとらう。就農して半年目、意を決して父に切り出した。「なにか責任ある仕事を受け持たたい」と。父から子牛



森静畜産の総勢6人。左から、直希さん、希巴江さん、佐江子さん、留美さん。手前は、祖父母の静馬さんと則子さん。みんな明るい家族だ

の世話を一任された。子牛は生後2カ月で購入、75^{キログラム}ほどある体重を1年かけて300^{キログラム}に育成。肥育牛舎へ移して、出荷までに800^{キログラム}に太らせていく。

育成中の子牛たち200頭が佐江子さんに委ねられた。やる気満々で祖父の静馬さん(81歳)から引き継いだがいざとなるとわか

らないことだらけだった。「やるしかない」と、責任感がぐっと芽生えました。父や祖父に聞きながら、がむしゃらでした」

生後間もない子牛には、栄養と感染予防のために、まず補液を哺乳瓶で与える。「ここにありますが、つて指を吸わせながら教えてやるんです」

補液から栄養価が高くて硬めのものへと餌をだんだん切り替えていく。日々、牛の状態をつぶさに観察しながら慣れさせていく。生来弱い体質の子もいるし、温度の変化やお腹の調子も敏感。様子がおかしいと思えば、手早く熱を測ったり薬を与えたりしないと事故につながる。細心の心配りをしながら、子牛たちの面倒を見ている。

「以前は200頭のうち7〜8頭死なせてしまったこともあるけど、娘が面倒を見てくれるようになって、ゼロになった。凄いことなんです」と直希さんも舌を巻く。

商業高校を出た妹の希巴江さん(21歳)は、学校で習ったことを活かし、少しずつ経理の手伝いをしている。

農林大学校を卒業し、2年前に就農した。「『参考にして』と姉がノートを手渡ししてくれました。姉が仕事を覚えたメモがぎっしり。それを見て感激しました」

ノートには、父や祖父に教わったこと、病気の子牛や風邪を引いたときの手当てや、佐江子さんの工夫などが、細大もらさず記してあった。貴重な手引き書である。

深い愛情と細やかな心配り

飼料米を導入した肥育の要は、餌やりだ。牛舎を大きくした際に、餌が自動で流れる自動給餌器を導入したが、森静畜産では餌にもう一手間かける。より良質な肉質にするための餌のこだわりがある。給餌器の配合飼料に飼料米やふすま、大豆カス、トウモロコ

シなどを混ぜてやるのだ。

お米はおいしいので牛も大好き。「混ぜご飯にしてあげないとお米ばかり食べてお腹の調子が悪くなるんです」と佐江子さん。「ふりかけだよ。おいしいから食べて」と言いながら、大きなスコップで混ぜて回る。いいフンが出ることも必須だから、草や藁も欠かせないし、日に5回、牛舎の34部屋を回る。「めちゃくちゃ大変。最初は筋肉痛になりました(笑)」。フンを出す作業もある。「ウンコって、結構重いです(笑)」定期的に木くずを敷きかえてきれいな牛舎にしてやるが、子牛は、とくに病気にかかりやすいから手間を惜しまない。「赤ちゃんのおむつを替えるようなものですね」

そんな牛たちはそれぞれ個性的だ。「いいめっ子もいれば、ウオーンってすり寄るめっちゃん人懐こいのもお調子者もいる。一頭一頭、みんな性格が違います」

牛への愛情がにじむ言葉を聞いて、「出荷のときは寂しいでしょう?」と尋ねると、「この子たちの使命は、おいしいお肉だね、と言われること。立派に育ったね、と送り出せるようお世話をします」と、二人が口々に語る。

短期肥育に切り替えてわずか2年で経済肥育賞を受賞した。飼料米は、地元と自家生産のもの。鶏や豚と違って、飼料米による牛の肥育は難しいとされているが、家族が丸となって工夫を重ね、牛一頭一頭に心を通わせて育てている証にほかならない。

(片柳草生／文 河野千年／撮影)

夏の夕方に、ふと思い出す記憶がある。その頃、私は父の転勤でシカゴの郊外に住んでいた。まだ明るい時間から父はグレルの前で炭の火を起こし、その匂いが開けっ放しの窓から漂う。キッチンでは母が、ゆでたての青々しい枝豆やスライスした真っ赤に熟れたトマトにマヨネーズ、ポン酢、たっぷりのかつおぶしをまぶしたサラダや、大葉、ささみ、梅肉を巻いてカリカリに揚げる春巻きを作る。アメリカなのにサイドは父好みの完璧な和風。

リタイヤするまでキッチンに立つことのなかった父が、「トウモロコシは、皮を一枚だけ残してしばらく大きなボウルで水に漬ける。そのままホイルに巻いて焼くと、ふっくら蒸し焼きになるんだ」と、BBQのときだけは近所のアメリカ人から教わった焼き方を得意そうに披露する。かぶりつくとプチプチの食感と甘さが広がるトウモロコシ。そんなBBQが夏の日常だった。

結婚して子どもができた今、毎夏、私たちは長野県の森の家でしばらく過ごす。ヒグラシの声が聞こえる時間帯になると、夫と小学生の息子たちが火を点けBBQの準備を始める。子どもたちが農園から収穫してきた野菜で、私はサラダをつくる。ジャック・ジョンソンのユルい音楽がぴったりと合う、お気に入りの時間だ。まだ冷たい油の中に、カットして強力粉をまぶしたジャガイモ、ニンニク丸ごと、そしてローズマリーとタイムもそのまま入れ、低温でじっくりと揚げるポテトフライ。お酢をたっぷり入れて冷蔵庫で冷やしたキノコマリネ。旬の甘い桃とブロッコリーチーズにカプレーゼ。採ってきた夏野菜を全部入れて煮込むラタトゥイユ。たまに両親がくると、また内田家とは一味違うBBQを楽しんでくれる。息子たちが将来新しい家庭をもったときは、どんなBBQをじっくり上げていくのかな。そのときに、今の夏の情景をちらりとでも思い出してくれたらうれしい。



フリーアナウンサー
内田 恭子

うちだ きょうこ
1976年ドイツ生まれ。99年慶應義塾大学卒業後フジテレビ入社。2006年退社後はフリーアナウンサーとして活躍。「名医に聞きたい!〜ヘルシーライフのすすめ〜」(BS朝日)ナビゲーターなど。明るく親しみやすいキャラクターで幅広い世代に支持されている。

夏の思い出

温暖化がもたらす新たな機会

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門 生産・流通研究領域 園地環境ユニット長

杉浦 俊彦

2 016年9月号の本欄で、「温暖化の利点を享受する」として、果樹生産にとって脅威となっている地球温暖化が農業に及ぼす影響の利用、とくに亜熱帯果樹生産の将来性について述べた。それから4年、この春、閣議決定された新しい「食料・農業・農村基本計画」においても「これまで輸入に依存していた亜熱帯・熱帯果樹等の新規導入や転換など気候変動がもたらす機会の活用を推進する」とされ、亜熱帯果樹への期待はますます高まっている。

亜熱帯果樹の明確な定義はないが、日本で主要な常緑果樹（ミカン、ビワなど）よりも高温を好む果樹のうち、熱帯果樹（パイナップル、マンゴーなど）より涼しい地域でも栽培可能なものが該当する。具体的には、亜熱帯性のかんきつ類（オレンジ類、タンカン、フィンガーライムなど）、アボカド、パッションフルーツ、ライチ、アテモヤなどがある。

現 状では、九州南部の沿岸部や、奄美大島、沖縄本島などの南西諸島、あるいは伊豆・小笠原諸島が主要な適地となっており、これらの地域では露地もしくは雨よけ施設などで栽培されている。今後の温暖化の進行により、現在は島しょ部中心の栽培適地が、九州・四国・本州のかんきつ栽培地帯に拡大することで、適地の面積は一気に増加する見込みである。



栽培研究の進む国産ライチ。現在、国内流通量はわずか1%

沖縄県、鹿児島県その他、三重県など、本州にも産地が拡大するアテモヤ

しかし適地になっても簡単には栽培できないのが果樹の難しいところである。現在の産地や海外の栽培技術が、そのまま適用できるとは限らないため、新たに栽植する地域に適した栽培体系を構築していく必要がある。

そこで、亜熱帯果樹生産の普及に向けた、わが国初の全国的な研究プロジェクトとなる「アボカド、パッションフルーツなど亜熱帯果樹における国産化可能性の分析と栽培技術の開発」が、2018年度までの3年間実施された。これは、農研機構、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）、京都大学、鹿児島大学、鹿児島県、三重県、岐阜県、東京都、千葉県が協力して、栽培試験をおこなったものである。

アボカド生産量は17年度産の統計で国産9トであるのに対し輸入量は7万トを超え、国産化を進めるインパクトが大きい。また、パッションフルーツは毎年苗木から育てて果実を得られるため、亜熱帯果樹でありながら、越冬中の寒害を避けやすいという利点がある。プロジェクトでは、得られた知見を「栽培の手引き」に取りまとめ、ウェブサイトで公表している。亜熱帯果樹に関する栽培技術の研究開発は発展途上であり、技術的に十分確立したものとはいえないが、今後の生産拡大をめざし研究を広げていきたい。

F



Profile

すぎうら としひこ
1963年愛知県生まれ。87年京都大学農学部卒業後、農林水産省果樹試験場で果樹と気象の関係について研究を開始する。現在は主に温暖化に伴う果樹について研究。著書に「温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？」（技術評論社）。博士（農学）。専門は農業気象学。

●「栽培の手引き」のダウンロードはこちらから

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130811.html



小さな村に大きな夢を実現する 夫婦が手づくりの里山体験施設

石川県能登町

ケロンの小さな村村長

上乗 秀雄
じょうのり



人もカエルも虫も、みんな村民

「おじちゃん、見て見て。でっかいトノサマガエルつかまえたよ」私の姿を見つけた村の子が、駆け寄ってきてくれました。

自然体験村「ケロンの小さな村」が開村する土・日、村中に子どもたちの楽しそうな声が響き渡ります。いいえ、子どもたちだけではありません。おとなたちも楽しそう。訪れてくれた皆さんが村を満喫して笑顔になってくれるのが私たち夫婦はとてうれしいです。

ここは、奥能登の山間部にある小さな谷。ケロンの小さな村とは、私たち夫婦が手づくりした里山体験施設のことです。そして「ケロン」とはイメージキャラクターのカエルの名。この村は人もカエルもトンボも、みんな村民なんですよ。

以前、ケロンの小さな村のあるこの谷は、耕作放棄され荒れ果てていた田んぼでした。そこで私たちは、木を切り、水路を掘り、道を造り、建

物を建てました。きれいになった農地には、稲を植え、野菜の種をまき、花を植え、整備してきました。

そして現在、ケロンの小さな村を運営するここで、里山の再生に取り組んでいます。

パン工房では、大型石窯「ヘラクレス」に火を入れ、来訪者に販売する玄米パンや米粉のピザを焼きます。ケロンの小さな村で収穫したお米やジャガイモ、カボチャ、トマト、ピーマン、ニンニクなどは、パンやピザの材料です。子どもたちのピザ体験も人気です。子どもたちは、赤い炎のなか目の前で焼き上がる自分のピザに興奮気味で、お父さんやお母さんに自慢しながら食べるその姿は笑顔いっぱい、微笑ましい光景です。

また田んぼや畑、森や川を子どもたちの環境学習や自然体験の場につくり変え、子どもも工作室、森の学校を開いています。森の学校では、ケロン村裏手にある森(通称、ケロンの森)で、思い切り遊び学んでもらいます。植物や生きもの

を見つけ、森の豊かさを知る体験もします。樹齢100年以上のトガの大木を中心に手づくりしたツリーハウス」とがのきハウス」が森の学校の中心施設です。さらには、里山絵本『とがのき山のゆかいな学校』の出版などにも取り組んできました。絵本は、主人公のカエルと、ミミズやネズミなどが力を合わせて楽しく美しい里山をつくっていくお話です。

楽しみながら、ときに苦しみながらも、ケロンの小さな村づくりをすすめてきました。そして着手から十余年、いまでは保育園児の遠足や小学校の自然学習、高校生の農林業実習などにも利用され、県内外から年間5000人を越えるにぎわいとなっています。

ケロンの小さな村に流れる空気はゆったりしています。イジメや家族で悩む子どもたちにとって心の癒やし、なごみになっているようです。土日ごとにケロンの小さな村に通いながら再び元気に学校に行きだした子どもたちも多く見て

profile

上乘 秀雄 じょうのり ひでお

1944年石川県生まれ。大阪教育大学卒業後、石川県高校教諭、県教育委員会事務局教職員課長、県教育次長、県立高校長などを務めた。定年退職後、妻・純子とともに耕作放棄地を再開発して、2009年3月に子どもたちの自然体験村「ケロンの小さな村」を開村。19年、「内閣府・農林水産省の第六回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選定され初代の個人賞を受賞した。

ケロンの小さな村

奥能登の耕作放棄地を再開発して開村した手づくりの自然体験村。水田や野菜畑、ピザやパンを焼く石窯、子ども工作室や森の学校、ピオトブや川遊び場などを併設している。野外レストランで食事を楽しんだり、農業体験やピザづくり、木工体験や川や森の生きもの調べ、手づくり遊具やブランコなど自由闊達に遊ぶ、年間5,000人以上が訪れる奥能登の人気スポットになっている。



上:筆者の上乗さんと妻の純子さん。二人三脚でケロンの小さな村をつくってきた
下:なかにも入れる水車小屋(左)、ケロン村はまさに里山の手づくりテーマパーク

きました。

メルディンゲン村を夢見て

ケロンの小さな村は、2009年3月にオープンしました。能登半島の先端、能登町の県道沿いに「ケロン」の看板を立てました。構想から2年目、田んぼには稲穂がゆれ、カエルが遊び、子どもたちの歓声が響き、おとなたちははゆったりとコーヒーを楽しむ、そんな光景を夢見て心高まるスタートでした。

奥能登の農業はいま、高齢化や耕作放棄地の増加など、多くの課題を抱えています。そこで、私は定年を機に、地元地域内の耕作放棄地約1000坪を取得し、農業とガーデンの融合による「三者健康農業の実践」と「小規模農家の自

立策の模索」の二つを柱に立て、荒れた里山を再生してケロンの小さな村をつくることを決心しました。

1999年の秋、当時、石川県教育委員会に勤務していた私は、ドイツの環境都市フライブルグ近郊のメルディンゲン村を視察しました。そこでは小学生たちと先生が一緒になって、川岸に雑木を植えてコンクリート護岸に頼らない小川づくりをしていました。また、お弁当の残飯や教室のゴミをミミズの「カーロ」に与え、カーロが食べた物は餌、残したものはゴミなどと体験的な学習が取り入れられていました。

学校だけでなく地域のゴミの量をも劇的に減らせた実態に感動しました。小さな取り組みでも、長く続ければ大きな社会貢献になること

を目のあたりにし、いつかは自分も日本でメルディンゲン村を……、そんな想いを強くして帰国しました。とはいっても、現役時代は仕事に追われ、定年後も私学の講師を依頼され、日々の授業や学生募集など、忙しさが続きました。そんななかで次第に自分の生き方に物足りなさを感じ、悶々とする日々が続きました。自分の努力と責任で将来を切り拓く——。そんな生き方をしたい、と考えました。

07年2月、降りしきる雪を窓越しに眺めながら、お前は何ができるのか、何をしたいのか、そんな自問自答をノートに書き出すことにしたのです。ノートに自分をさらけ出しているうちに、新たな光として見えてきたのは、あのメルディンゲン村でした。

子どもたちの心と体を鍛える自然活動、子ども自らが考え行動できる生きる力、豊かな森と美しい田園。そんなイメージに突き動かされ、思いつくままの夢をノートに埋めていきました。

新規参入者には厳しい農地法

膨らむ夢はノート一杯になり、雪解けの3月初めには、今後10年間の「ケロンの小さな村整備基本計画」を完成させることができました。

土地の条件は、道路・電気・眺望・耕作放棄地の四つです。幸い当時、教え子が能登町農林課に勤務していたので、私の計画を示すと2、3日後には5〜6カ所を候補地として示してくれました。早速、土日ごとに彼と一緒に現地調査です。道路はあるが電気が遠い、道も電気もあるが眺望がいまいちなど、簡単ではありません。諦めかけたそんなとき、道は狭いが、深い谷の奥に杉の大木が3本そびえる荒地地が妙に私の心を強く引きつけました。

「お前を待っている！」谷の奥から声が聞こえたようにも思いました。その後も訪れる度に、「ここぞ私のメルディンゲン村だ！」と確信しました。ケロンの小さな村の地との出会いでした。土地を選定していいよ地権者との売買交渉です。地権者は5人、耕作放棄地とはいえ、先祖伝来の農地を手放すことに抵抗感があり、なかなか進みません。基本計画を丁寧に説明し、おおむね地権者の合意を得たのは夏も過ぎた9月ごろでした。しかし、それからがもっと大変でした。農地は法律でかく守られていて、たとえ当事者が合意しても、農業委員会の売買承認証がな

いと登記ができません。

これがすこぶる難関で、あまり合理的とは思えない農業委員会の定める基準をクリアしなければならぬのです。農地法は既存農家の保護が目的のようなので新規参入者の農地取得にはずいぶんハードルが高いのです。困りました。ときには喧嘩腰になりながらも説得しました。

その甲斐あってか、売買契約に入ったのは年明けの2008年1月になってから、2月には約1000坪の土地の登記も済ませることができ、感無量でした。登記を無事終え、まだ深い雪に眠るあの三本杉の谷間を眺めた感慨は、いまでも忘れることができません。

同年3月初旬、雪の残る山道を夫婦二人でスノーダンプを押しながら里山づくりの第一歩を踏み出しました。妻は購入したばかりのユニボ「アトム君」を操縦して、十数年の耕作放棄で埋まってしまった水路の復活や茅の大株掘りです。全くの素人ですが頼もしい限りです。私はいたところに繁茂してしまつた柳や桑の大木、巻きついた太いフジツルの伐採です。クズツルやイバラで傷だらけになっての格闘でした。それでもアトム君とチェーンソーの快調なエンジン音を谷間に響かせながら、荒れていた里山が少しづつきれいになっていきました。着手から約2カ月、5月ごろには、雑草や雑木の処理をほぼ終え、明るい春の陽ざしを感じる日々がやってきました。きれいになったあぜ道で、たき火のコーヒーを二人で味わいながら、至福のひとつを過ぎました。そんな二人の幸福も、「怪しい新興宗教かもしれない。危ないから近づくな

と土地の噂になったことを後で知りました。笑い話の懐かしい思い出です。

小規模農家の自立策の実践

ケロンの小さな村で取り組む農業の目標は「三者健康農業の実践」と「小規模農家の自立策の模索」の二つです。三者健康農業とは、つくる人・食べる人・大地の三者それぞれが健康になることをめざす農業です。小規模農家の自立策の模索とは、古来、農業は気候、風土に依拠して営まれ、その多様性の保証こそが安定した経営を可能にすると考えています。奥能登は中山間地が多く、小規模農家は地域の大切な担い手です。そのため、生産・加工・販売の一体化、観光や環境保全、自然体験などに取り組み、一定の収益を得て小規模農家としても自立できることをケロンの小さな村で実証したいのです。

さて、2019年12月3日、第六回ディスカバ―農山漁村(むら)の宝の選定証交付式が東京の首相官邸でおこなわれ、その交付式にケロン村も参加できたことは青天の霹靂です。交付式の翌日にはJR有楽町駅前広場の特設マルシェでケロンのノボリ旗を立てて販売活動をできたことも私にとって夢の舞台でした。私たちの取り組みを、国の認める「むらの宝」として選定していただけたと思うと望外の喜びです。

もちろん、夫婦二人だけの力ではありません。厚い友情やたくさんの方々のご好意・ご支援のおかげです。だからこそ一段とうれしく、これからも皆さんに愛される小さなケロンの村づくりに一層邁進していきたいと誓っているところです。 **F**

『お米の先物市場活用法』

三次理加著



(時事通信出版局・1,500円 税抜)

米先物取引のメリットを知る入門書

武本俊彦

(新潟食料農業大学教授)

日本に住む多くの人にとって重要な食品の一つはお米だろう。50年間で半減したとはいえ、日本人一人当たりの米の年間消費量は50キログラムを超える。100年ほど前に起きた「米騒動」をきっかけに、お米の需給と価格の安定を図るために政府が強く関与する制度がつけられ、戦後、市場メカニズムを基本とする経済システムに転換したなか、20世紀末まで存続した。現在の制度では需要と供給によって価格が形成される。しかし、出来秋のシーズンになると、決まって「このままでは秋には米価が暴落するので供給量を減らさないといかん」といった論調が繰り返されている。需要量を供給量が上回りそうなら、取引価格は低下することになり、供給サイドは数量調整に取り組むはずだ。

しかし、現実はその動かない。とりわけ今

年は、コロナ禍で外食需要が蒸発し業務用を中心に米余りの恐れが出てきた。主食用から飼料用へ誘導すべきとの主張がなされている。このような危惧が現実化しそうなら米価に反映していくはずだ。需要と供給によって現物相場が形成され、先物市場で将来の価格が形成されれば、供給量を減らすのか、それとも価格変動をヘッジするのか、経営の安定策を選択できることになるのだろう。

本書は、商品先物取引に関する書籍であるが、「こうすればもうかる」系の本ではなく、「米生産者・卸・集荷業者などの米にかかわる業者の方々が抱えるリスクを回避するために、商品先物市場を利用する方法」を平易に解説したものだ。

日本では、お米は先物取引のような「投機」の対象とすべきではないとの主張が強い。米の生産者の立場に立てば、春先の田植えまでに出来秋の販売価格が確定したほうが経営安定に望ましいのはいうまでもない。また、在庫で抱えたお米の値段がどうなるかは、生産者から買取集荷する農協や民間業者にとっても、流通業者の経営にとっても気がかりである。先物取引制度を使うかどうかはそれぞれの判断に任せるとしても、仕組みや機能を理解し、経営にとってのメリット・デメリットを正確に知ることは、損になることではない。こゝ一読をお勧めする次第だ。

なお、高槻泰郎著『大坂堂島米市場 江戸幕府VS市場経済』（講談社現代新書）も合わせてお読みいただくと理解が深まる。

読まれています 三省堂書店農林水産省売店 (2020年8月1日～8月31日・税抜)

タイトル	著者	出版社	定価
1 データ農業が日本を救う	窪田 新之助／著	集英社インターナショナル	840円
2 令和2年版 食料・農業・農村白書	農林水産省	農林統計協会	2,600円
3 フードテック革命 世界700兆円の新産業「食」の進化と再定義	田中宏隆、岡田亜希子、瀬川明秀／著 外村仁／監修	日経BP	1,800円
4 儲かる農業2020 週刊ダイヤモンド 2020年3月21日号	週刊ダイヤモンド	ダイヤモンド社	664円
5 平成農政の真実 キーマンが語る	菅 正治／著	筑波書房	1,500円
6 フードバリューチェーンが変える日本農業	大泉 一貫／著	日本経済新聞出版社	1,800円
7 2030年のフード&アグリテック 農と食の未来を変える世界の先進ビジネス70	佐藤 光泰、石井 佑基／著	同文舘出版	2,300円
8 農業のしくみとビジネスがこれ1冊でしっかりわかる教科書	窪田 新之助、山口 亮子／著	技術評論社	1,500円
9 農と食の貿易ルール入門	作山 巧／著	昭和堂	2,600円
10 季刊地域42号 2020年夏号(雑木とスギの知られざる値打ち)	農山漁村文化協会／編	農山漁村文化協会	857円

飲食店経営者、生産者・卸売事業者の皆さまへ

農林水産物の販路の多角化推進事業 (食材費や包材費の最大半額を支援)

農林水産物の販路の多角化推進事業事務局では、対象品目について、その生産者・卸の皆さまと、デリバリー・テイクアウト販売などに取り組む全国の飲食店が直接取引できるインターネット販売サイト「ぐるなびFOODMALL」を開設しています。

◎飲食店経営者の皆さま

このサイトでは、デリバリーやテイクアウト販売などに取り組む飲食店の皆さまが対象品目や包材を最大半額で購入することができます。このサイトに登録(登録料無料)して、新商品・新メニューの開発に取り組んでみませんか。

◎生産者・卸売事業者の皆さま

対象品目を取り扱う生産者・卸売事業者などの皆さまは、対象品目を登録料などの負担なく出品・販売でき、飲食店へ発送する際の配送料が無料になります。販売サイトには全国各地の飲食店が参加しておりますので、このサイトに出品して、新たな販路を開拓してみませんか。

【対象者】

- ① 飲食店
- ② 対象品目を取り扱う生産者、卸売事業者など

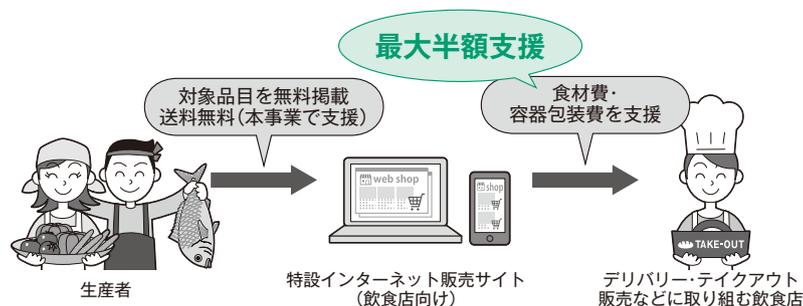
【支援対象】

- ① 飲食店
 - ・対象品目の調達費(補助率1/2以下、最大半額での購入が可能)
- ② 対象品目を取り扱う生産者、卸売事業者など
 - ・対象品目を飲食店へ発送する際の送料
 - ・出品・掲載手数料(補助事業により開設されたサイトであるため無料になります)

【事業期間】 販売期間(掲載期間): 2021年1月末まで(予定)

【参加方法】 出品方法の詳細は、農林水産物の販路の多角化推進事業事務局ホームページをご確認ください。

農林水産物の販路の多角化推進事業事務局
<https://foodmall.gnavi.co.jp/about/>
 TEL.0120-905-587



農林水産省は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、インパウンドの減少や外出自粛などにより、在庫の滞留、価格の低下、売り上げの減少などが顕著な牛肉、花き、果物などについて、「国産農林水産物等販売促進緊急対策」により販売促進の取り組みを支援しています。民間のさまざまな販路を活用する支援メニューのうち、三つの取り組みをご紹介します。

生産者や卸売事業者の皆さま、飲食店を経営されている皆さまにとっても有益に感じていただける取り組みです。ぜひ、ご活用ください。

販路の多角化へ取り組む皆さまへ

「#元気いただきますプロジェクト」のご紹介

◎対象品目(8月末時点:品目は追加になる場合があります)

和牛、水産物(マグロ類など)、野菜・果実(メロン、マンゴー、イチゴ、サクランボ)、茶(リーフ茶)、そば、ジビエ(イノシシ肉、シカ肉)、つまもの類(ワサビ、大葉、タケノコ)

生産者・卸売事業者、ECサイト事業者の皆さまへ

インターネット販売推進事業 (送料の全額を支援)

インターネット販売推進事業では、生産者や卸売事業者などの方々がインターネット販売サイトで対象品目を販売する際の送料を支援します。

◎生産者・卸売事業者の皆さま

本事業を活用することで、全国各地の消費者に送料無料で商品をお届けすることができます。コロナ禍で消費様式が変わりつつあるいま、インターネット販売により新たな販路を開拓してみませんか。ぜひ出品をご検討ください。

◎ECサイト事業者の皆さま

対象品目を取り扱う販売サイトとして、本事業に参画いただけるECサイトを募集しておりますので、ご関心があるEC事業者の皆さまは応募をご検討ください。

- 【対象者】** ①インターネット販売サイトに対象品目の出品をおこなう生産者、卸売事業者など
②ECサイトを運営している事業者

【支援対象】 事業に参画しているインターネット販売サイトで、対象品目を販売する際の送料(販売サイトが送料をすべて負担するので、生産者の皆さまが負担する必要はありません。)

【期間】 2020年12月末まで(予定)に納品完了した商品の送料が対象

- 【参加方法】** ①出品を希望される場合、販売サイトへご連絡のうえ、各サイト運営者が定める手続きを経ていただきます。対象となる販売サイトや出品できる商品などの詳細は、インターネット販売推進事業事務局ホームページをご確認ください。
インターネット販売推進事業事務局
<https://www.ec-hanbai-suishin.jp>
TEL.0570-023-064
- ②販売サイトとして参画を希望される場合、#元気いただきますプロジェクト事務局ホームページをご確認ください。
#元気いただきますプロジェクト事務局
<https://www.kokusan-ouen.jp/ec/>
TEL.03-6205-8421



小売事業者、卸売事業者、
生産者団体の皆さまへ

地域の創意による販売促進事業 (食材費やイベント経費の最大半額を支援)

地域の創意による販売促進事業では、道の駅や直売所などの販促キャンペーンで使用する食材費などを支援します。地域の実情に応じ、創意工夫を凝らして実施する取り組み。たとえば、地域の直売所やスーパーなどで、「おうちで和牛ウィーク」「Let's 手巻き寿司ウィーク」といったキャンペーンを企画して、販売促進活動をおこなう際に、必要となる食材費、イベント経費(広告・宣伝費など)の1/2を支援します。

【対象者】 対象品目を取り扱う民間事業者など

【支援対象】 対象品目の食材費、イベント経費(広告・宣伝費など)の1/2
・キャンペーン実施期間
連続または非連続で、合計14日間以内。ただし、地方公共団体と連携する場合は連続1カ月

【期間】 ・申請受付期間：2020年11月30日(月)17時まで
・事業実施期間：2021年1月31日(日)まで

【参加方法】 出品方法の詳細は、地域の創意による販売促進事業事務局ホームページをご確認ください。
地域の創意による販売促進事業事務局
<https://chiikinosisui.jp/>
TEL.03-4477-2883



帯広支店発

リスクマネジメント研修で
講師を務めました

北海道中小企業家同友会とかち支部の農業経営部会7月例会において、帯広支店長が「コロナ禍におけるリスクマネジメント」をテーマに講義をおこないました。

近年、自然災害や厄災など企業の将来に大きな影響を与える危機が頻発している状況を受け、「リスク管理」と「危機管理」の違いやリスクマネジメントの手順、BCP（事業継続計画）の作り方など、事業継続に必要な日頃の備えについて説明しました。

参加者からは「リスク管理や事業継続のためにはコストをどこまで許容すべきか」など、現実的な質



説明する支店長の山下(右)と課長の岩崎

問が多く出され、関心の高さがうかがわれました。

また、支店業務課長が新型コロナウイルスの感染拡大が十勝の農業に与えている影響および公庫の支援策について解説。とくに肉用牛経営への影響が大きく、今年の第1四半期はインバウンド需要などの落ち込みにより、枝肉や素牛価格が前年同期よりも2〜3割下落していることを説明したほか、酪農では生乳が脱脂粉乳やバターなど加工用に大きく仕向けられたこと、畑作では輸入肥料の延着など輸送面に影響があった事例を紹介しました。

これらを踏まえ、影響を受けた経営者への支援として、公庫が融資制度に特例を措置したことや、販路拡大・人手不足支援などにも積極的に取り組んでいることを案内しました。

なお、本例会はオンライン参加が推奨され、会場ではソーシャルディスタンスを保つなど感染防止対策がとられました。

7月9日、於…帯広市、参加者…同友会会員など18人

アグリフードEXPO オンライン

開設のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、例年2月後半に開催している国産農産物の展示商談会「アグリフードEXPO大阪」について、本年度の開催を中止することといたしました。

そこで代替として展示商談サイト「アグリフードEXPO オンライン」の開設を予定しております。

出展のお申し込み手続きなど、具体的なご案内は、10月上旬をめどに日本公庫ホームページでお知らせいたします。

新型コロナウイルス感染症・令和2年7月豪雨に係る 特例制度が措置されています

新型コロナウイルス感染症で影響を受けた農林漁業者などの皆さまと、令和2年7月豪雨により被害を受けた農林漁業者などの皆さまを対象として、農林漁業セーフティネット資金と農林漁業施設資金（災害復旧施設）に特例制度が措置されています。

ご相談については、本店農林水産事業本部（フリーダイヤル：0120-926478）および全国の各支店農林水産事業で受け付けています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、まずは電話でご相談ください。

皆さまからのご融資やご返済に関する相談に、政策金融機関として引き続き迅速かつきめ細やかな対応をおこなってまいります。

[特例措置の内容]

	新型コロナウイルス感染症に係る特例措置	令和2年7月豪雨による被害に係る特例措置
対象資金	農林漁業セーフティネット資金	①農林漁業セーフティネット資金 ②農林漁業施設資金（災害復旧施設）
ご利用いただける方	主業農林漁業者（注）などであって、新型コロナウイルス感染症により資金繰りに著しい支障を来しているまたは来すおそれがある方	主業農林漁業者（注）などであって令和2年7月豪雨により被害を受けた方
資金の使いみち	農林漁業経営の維持安定に必要な長期運転資金	災害により被害を受けた経営の再建や施設の復旧に必要な資金
特例制度の内容	(1) 金利負担軽減 実質無利子（融資当初5年間（林業者は当初10年間）） (2) 融資限度額引き上げ 一般：1,200万円、（特認※）年間経費などの12分の12 ※簿記記帳をおこなっている方に限り、経営規模などから融資限度額の引き上げが必要と認められる場合に適用されます。 (3) 実質無担保・無保証人 担保は融資対象物件、保証人は同一経営の範囲内に限る貸付け	(1) 金利負担軽減 実質無利子（融資当初5年間（林業者は当初10年間）） (2) 融資限度額の引き上げ ①農林漁業セーフティネット資金 一般：1,200万円、（特認※）年間経費などの12分の12 ※簿記記帳をおこなっている方に限り、経営規模などから融資限度額の引き上げが必要と認められる場合に適用されます。 ②農林漁業施設資金（災害復旧施設） 負担額の100%または1施設あたり1,200万円のいずれか低い額 (3) 実質無担保・無保証人 担保は融資対象物件、保証人は同一経営の範囲内に限る貸付け
融資期間（うち据置期間）	15年以内（3年以内）	①農林漁業セーフティネット資金 10年以内（3年以内） ②農林漁業施設資金（災害復旧施設） 15年以内（3年以内）

（注）主業農林漁業者とは

個人：農林漁業に係る所得が総所得の過半を占めている方、または農林漁業に係る粗収益が200万円以上の方

法人：農林漁業に係る売上高が総売上高の過半を占めている方、または農林漁業に係る売上高が1,000万円以上の方

○その他の資金についても、金利負担軽減と実質無担保・無保証人などの特例措置があります（担保は融資対象物件に限る貸付け、保証人は同一経営の範囲内のみに限る貸付け）。詳細は公庫支店へお問い合わせください。

○審査の結果により、ご希望に添えない場合があります。



日本公庫支店は
←こちらから
アクセスできます

◆7月号のSDGs特集を読みました。持続可能な社会への取り組みといえば、身近なところでは、買い物をするときのエコバッグ。コンビニでの精算時、「レジ袋は必要ですか」と問われ、「しまったー」と思うこともしばしばです。

さて、私の住む和束町は中山間地域にある、茶業をなりわいとする農家が多い宇治茶の主産地です。この30年で人口は3000人減少し、担い手の高齢化が顕著で、茶農家全体の数は減少していますが、一定の生産量を維持しています。その要因の一つは、生産・製造形態の多様化に早期に対応できたことだと推測しています。中山間地域で持

続可能なまちづくりに取り組むには、消費者の嗜好やブームにいち早く気付いて順応できるかが大切になります。

いまやお茶は、「湯を注いで飲むもの」から、「食するお茶」「観るお茶」「体験するお茶」へと進化しています。また、「シングルオリジン」「ストレート」と呼ばれる、生産者や品種を限定した緑茶が注目されるなど、大きく変わってきました。

「新しい生活様式」に合わせ、10年先を見据えたタイムラインを策定し、いま何をすべきかを考える。それが持続可能な地域ブランド確立につながると思います。

(京都府和束町 馬場 正実)

ご意見・ご感想をお寄せください

本誌では読者の皆さまからのご意見・ご感想を幅広く募集しております。特集企画への感想や誌面に登場していただいた農林漁業者へのメッセージ、農林漁業についてのご意見、また、誌面へのご意見、ご提案もお待ちしております。お名前、ご住所、電話番号を記載のうえお送りください。

ご意見を掲載させていただいた方や参考にさせていただいた方には、図書カードを差し上げます。

【送付先】

メール anjoho@jfc.go.jp FAX 03-3270-2350

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
日本政策金融公庫 農林水産事業本部
AFCフォーラム編集部宛て
Tel. 03-3270-2268



右記のコードもご利用ください →

AFCフォーラム Forum

編集

前田 美幸 平野 伸介 高雄 和彦
山本 晶子 城間 綾子 竹中 夕美

編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

発行

(株)日本政策金融公庫 農林水産事業本部
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

印刷 佐伯印刷株式会社

販売

株式会社日本食糧新聞社
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-14-4
ヤブ原ビル
Tel. 03(3537)1311
Fax. 03(3537)1071
ホームページ
<http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/>
お問い合わせフォーム
http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

定価 523円(税込)

編集後記

④クボタの飯田さんは日本農業が持続的に発展していくためのポイントとして、「匠の技や長年のノウハウの伝承を挙げられています。高齢化が進む農業界で、貴重な「匠の技・ノウハウ」を確実に次世代に伝承していくためには、早期の情報蓄積が必須。「WAGRI」における、官民連携による農業データ共通基盤の整備の促進を期待します。(高雄)

④農業DX(農業と農村の一体的なデジタル化)と聞いて最初はピンときませんでした。日本総研の三輪さんの具体例を読み、スマート農業で得られた情報を活かして農村の暮らしをより豊かにすることだと感じました。すぐに田舎の祖母に電話し、「もっと便利な生活になるから長生きして」と言うと、「スマホを使わなきゃね」と返ってきました。(山本)

④「農と食の邂逅」では、作家の片柳草生さんに初執筆いただきました。片柳さんは大学卒業後に出版社で編集者として活躍後、独立。手仕事の生活道具の数々を紹介する本を出版されています。農業誌とはまったく異なる分野で活躍されてきた方です。今回は、畜産業のことなどを一から勉強され、取材に臨んでくださいました。ぜひ、ご読ください。(城間)

④「耳よりな話」は温暖化を利用した亜熱帯果樹の栽培促進について。思い返せば約30年前に気候変動が問題化してから、私たちは先進技術に支えられ、「ワイズ温暖化」の暮らしを続けてきました。今回の難局が収束するまで、あとのどのぐらいかかるのでしょうか。平穏な日常を取り戻す対策技術が確立することを願わずにはられません。(竹中)

経営にゴールなし 支援者がいれば 困難越え成長する



古賀 久子

KOGA Hisako

初めて農業経営者と関わったのは30年前、とある耕種の農事組合法人の決算を引き受けたときだ。その法人の関係機関を交えての決算総会の折に、研修会の講師を務めたことが、農業関係の仕事を専門的に始めるきっかけとなった。その当時から経営の安定をはかり、後継者を確保・育成していくことは課題であった。

その後、長崎県内各地で、研修会の講師を務めてきた。離島の会場では「島から都会に出ていった息子に帰ってきてもらうにはどうすればよいか」という質問を受けることもあり、ビジネスとしての農業経営確立の重要性を身にしみて感じた。

私が経営の基本としてきたことは、簿記記帳に基づき、貸借対照

こが ひさこ

長崎県出身。税理士法人土井税務会計事務所税理士。長崎県農業経営相談所専門家・同農業経営スペシャリスト。自らも税理士業において2度の事業承継の経験(第三者、親)を持つ。

表・損益計算書を作成し、青色申告をすることだった。そこで得られたデータを活かし、経営計画を立て、戦略を練り実行し、結果を検証し、さらに、改善行動を繰り返すことをルーティーン(習慣化)とすること

農業・農村の持続性を高めながら農業や食品産業の成長産業化を促進する「産業政策」と、多面的機能の維持・発揮を促進する「地域政策」とを車の両輪として各分野の施策を講じていくこととされている。



である。自らの体力を知り、それを活かしていく。根拠に基づく経営である。

現在、私は多くのたくましい若手農業経営者と仕事をする機会に恵まれている。自信を持って情熱を注ぐ彼らと将来の夢を語り合うのは、税理士冥利に尽きる。

わが国の食と活力ある農業・農村を次の世代につなぐために、新たな「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定された。人口減少が本格化する社会にあっても、食料・

農は「^{もとい}国の基」である。国民の一人一人がその認識を共有するなかで、後継者が育ち、地方が潤う。事業経営にゴールはない。常に発展途上にある。

しかし、切磋琢磨する仲間や、伴に走る支援者がいれば、困難を乗り越え成長を続け、次代につながる可能性が広がる。全国で活躍する農業経営者がいて業界が活性化していく。「農活の時代」のなかで、農業経営アドバイザーとして将来を見つめ、心を込めてその役割を担っていきたい。**F**

■ 農業経営アドバイザー

農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的で的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫(当時、農林漁業金融公庫)が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆します。

スマート農業の扉が開く

■AFCフォーラム 令和2年10月1日発行(毎月1回発行)第68巻6号(841号)
■発行/(株)日本政策金融公庫 農林水産事業本部 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 Tel.03(3270)2268
■販売/株式会社日本食糧新聞社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-14-4 477原ビル Tel.03(3537)1311 ■定価529円

本体価格476円



『田んぼと生き物』青木 丈一郎 千葉県野田市立二川小学校
(全国土地改良事業団体連合会主催「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展入賞作品)

